

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 71人          国語B 71人

② 算数A 71人          算数B 71人

③ 理科 71人

#### 5 留意事項

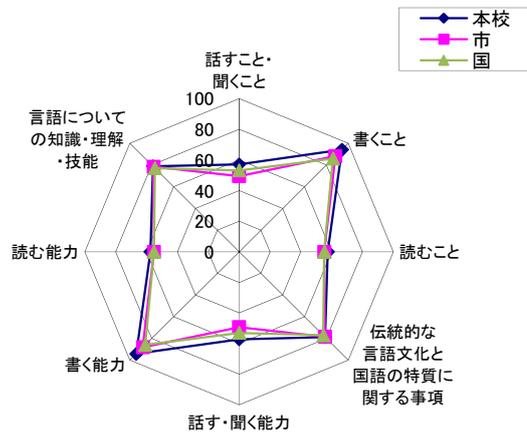
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

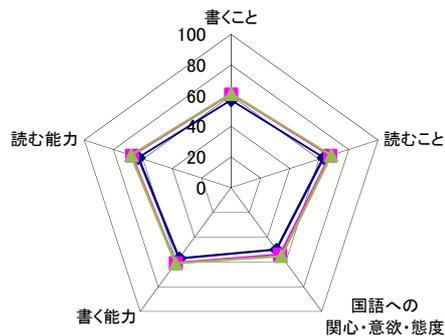
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	57.1	49.3	53.0
	書くこと	94.3	88.2	86.0
	読むこと	57.5	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.7	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	57.1	49.3	53.0
	書く能力	94.3	88.2	86.0
	読む能力	57.5	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	78.9	78.5	77.2



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	57.1	60.9	61.1
	読むこと	63.1	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	50.0	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	57.1	60.9	61.1
	読む能力	63.1	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



## ★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 国語に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合は、全国平均を上回っている。全体的に本校の児童は国語を学ぼうとする意欲が高いと思われる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答している児童の割合は、全国平均を特に上回っている。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫しているか」に対してどちらかといえば、当てはまらないと回答している児童が多く見られる。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

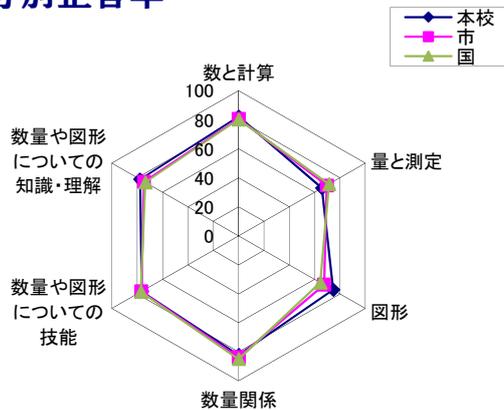
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は57.1%で市平均より7.8ポイント高く、全国平均より4.1ポイント高い。</li> <li>○聞き方の説明として適切なものを選択する設問で正答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにするとともに、様々な話し手の場面で、話し手や聞き手、司会者などそれぞれの立場にたって話したり聞いたりする学習を取り入れていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は94.3%で市平均より6.1ポイント高く、全国平均より8.3ポイント高い。</li> <li>●B領域の平均正答率は57.1%で市平均より3.8ポイント低く、全国平均より4ポイント低い。</li> <li>●目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えたり、文章と図とを関係付けて、自分の考えを書いたりすることが全国平均より低く課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の学習だけでなく、総合的な学習の時間などの他の教科においても自分の意見を書く機会を設け、作文力が高まるようにする。その際、必ず使用する言葉を入れたり、文字数を制限したりするなど、条件を付けた文章を書くように指導していく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は57.5%で市平均より2.3ポイント高く、全国平均より2.3ポイント高い。</li> <li>・B領域の平均正答率は57.1%で市平均より3.8ポイント低く、全国平均より4ポイント低い。</li> <li>●登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えたり、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫を読み取ったりすることが全国平均より低く課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の展開に即して、「いつ」「どこで」「だれが」「何をして」「どう思ったか」などを中心に物語のあらすじをまとめることで、場面の移り変わりを捉えることができるように指導していく。</li> <li>・音読の工夫については、声の大きさや質、読む速さ、間の取り方などの観点を具体的に示し、児童が繰り返し音読することを通して、それぞれの観点到気付けようとする。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は78.9%で市平均より0.2ポイント高く、全国平均より1.7ポイント高い。</li> <li>●文の主語として適切なものを選択する設問の正答率が全国平均より8.8ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字小テストや漢字50題テスト、チャレンジテストへの取り組みで、繰り返し練習したり、再テストを行ったりすることにより、漢字の定着が図られてきているので、引き続き指導していく。</li> <li>・授業の中で、文の構成について意識させ、誰が言ったことなのか、誰が行ったことなのかなど、文の中における主語を捉えられるように指導していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

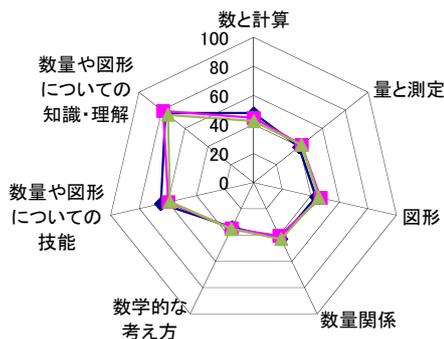
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	82.2	80.7	80.1
	量と測定	65.7	69.6	71.3
	図形	74.6	67.4	64.5
	数量関係	82.1	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	76.5	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	77.8	74.8	73.6



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	47.9	44.6	42.4
	量と測定	39.5	41.8	41.7
	図形	43.7	46.8	45.6
	数量関係	42.9	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	34.0	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	65.0	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	77.1	79.1	74.9



## ★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○算数に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は、全国平均を上回っている。児童の算数を学ぶ意欲が高いことが分かる。

○「算数の授業はよく分かる」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいとおもう」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答している児童の割合は、全国平均を特に上回っている。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

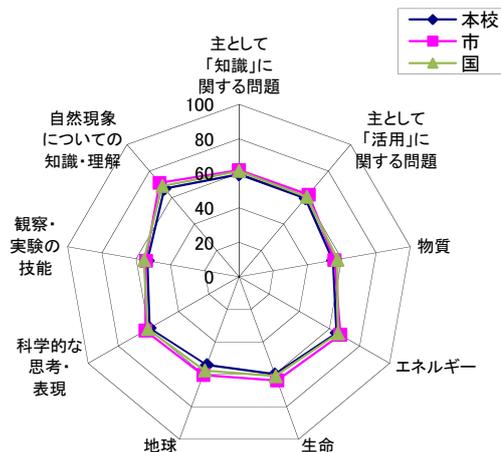
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は82.2%で市平均より1.5ポイント高く、全国平均より2.1ポイント高い。</li> <li>○小数の減法の計算や分数の除法の計算では、授業開始直後に行っている計算ストレッチの成果が見られる。</li> <li>●小数の仕組みと数の相対的な大きさについての理解や、それに基づく処理が全国平均より10ポイント以上低く課題が見られる。</li> <li>・B領域の平均正答率は47.9%で市平均より6.5ポイント高く、全国平均より5.5ポイント高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力を付けることを重視した、毎授業時間、開始直後の計算ストレッチやチャレンジテストへの取り組みを引き続き行い、指導していく。また、児童の状況に応じて、やや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>・整数や小数、分数といった数についての学習では、低学年の段階から単位の考えを丁寧に指導し、児童が数の仕組みについて理解できるよう指導を工夫する。また、それらの基本的な知識については、板書において整理してまとめ、児童がノートに書き、後に振り返って見直し理解を深めていくようにする。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は65.7%で市平均より3.9ポイント低く、全国平均より5.6ポイント低い。</li> <li>●4年生の学習である角の大きさについて単位と測定の意味の理解と測定についての習得が不十分である。</li> <li>・B領域の平均正答率は39.5%で市平均と同じで、全国平均より2.2ポイント低い。</li> <li>●算数の学習から見いだした考えを、条件を変更した場面に活用して、発展的に考察することに課題が見られる。無答率も20ポイントと高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の大きさについては、形式的な測定の処理だけでなく、日常事象と関連づけたり児童が主体的に関わる場面を設けるようにする。その上で角の大きさの見当を付ける活動や、分度器を用いて測定する活動、見当付けの結果と測定の結果について振り返って確かめる活動を取り入れるようにする。</li> <li>・論理の飛躍を防ぎ聞き手に的確に伝わるようにするためには、根拠となる事柄を過不足無く説明することが大切であり、算数の学習の中で、前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりする活動を取り入れ、指導の工夫をしていくようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A領域の平均正答率は74.6%で市平均より7.2ポイント高く、全国平均より10.1ポイント高い。</li> <li>○円と二等辺三角形や直方体の展開図の理解は、よく定着している。</li> <li>・B領域の平均正答率は43.7%で市平均より0.9ポイント低く、全国平均より1.9ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由の記述を求められると既習事項を基に、具体的に書くことが苦手な児童が見られ、授業の中で、根拠を明確にして説明をする活動を取り入れるようにする。</li> </ul>

数量関係	・A領域の平均正答率は82.1%で市平均より1.6ポイント低く、全国平均より2.8ポイント低い。 ●グラフに表されている事柄を読み取ったり、式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することに課題が見られる。 ●B領域の平均正答率は42.9%で市平均より4.8ポイント高く、全国平均より0.1ポイント低い。	・グラフの特徴を理解し、目的を持って資料を収集、分類、整理して事柄を効果的に表現したり、事柄を的確に読み取ったりすることができるように、授業展開を工夫するようにする。
------	--	---

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	59.4	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	59.4	62.2	60.5
区分等	物質	54.9	55.7	57.4
	エネルギー	64.8	67.2	65.6
	生命	60.0	63.8	61.2
	地球	54.3	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	59.4	62.2	60.5
	観察・実験の技能	53.4	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	66.8	71.1	68.6



## ★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「理科の勉強を好き」を当てはまると回答している児童の割合が、全国平均を特に上回っている。
- 理科に関するすべての質問において、肯定的な回答の割合は全国平均を上回っている。

## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は59.4%で市平均より0.8ポイント低く、全国平均より0.5ポイント低い。</li> <li>●振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書くことやグラフから設問にあったものを選び、選んだわけを書くことに課題が見られた。</li> <li>○メシリンダーの名称を書くことは正答率が低かったが、適切な扱い方を問う設問では正答率が高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グラフを基にして考察して、分析した内容を記述することを授業でも取り入れ、学習で得た知識・理解を基にその理由を述べるように指導していく。</li> <li>●器具の名称を正しく理解させるために、目的に応じて必要な器具を主体的に選択し準備する活動を通して、器具と名称、使う目的を一致させて捉えることができるようにしていく。</li> </ul>
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は59.4%で市平均より2.4ポイント低く、全国平均より0.8ポイント低い。</li> <li>●熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析し、他と比較して解釈した内容を記述することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや判断した根拠や理由を説明する際には、観察、実験の結果を基に事実と解釈の両方を示す必要があることを理解させ、指導していくようにする。</li> </ul>
生命	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は60.0%で市平均より3.8ポイント低く、全国平均より1.2ポイント低い。</li> <li>●示された器具の名称を書くことや植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●顕微鏡などの器具については、「もっと詳しく調べてみたい」という必要感をもち、学習場面や日常生活など様々な機会を通して器具に触れられるように工夫する。</li> <li>●学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考えることができるようにしていく。</li> </ul>
地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は54.3%で市平均より6.2ポイント低く、全国平均より3.5ポイント低い。</li> <li>○月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることの理解の正答率は高かった。</li> <li>●水が水蒸気になる現象について、その名称を書くことに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●科学的な言葉の意味を的確に捉え、日常生活に当てはめて考えられるように、日常生活の中で見られる現象を説明する学習活動を取り入れるようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立御幸小学校第6学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 生活について

○「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は(98, 6%)で、ほぼ全員がに近く、「みゆきっ子のやくそく」の徹底を図るとともに、道徳の時間などにおいてきまりについて考える活動を行い、規範意識を醸成している成果があると考えられる。

今後も、きまりの大切さを理解し、進んで守ろうとする態度を育めるよう、全校体制で指導していきたい。

○「人の気持ちを分かる人間になりたいと思う」や「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の回答はともに100%で、全校体制で取り組んでいる「いじめゼロ月間」や道徳の時間で人権について考える活動を行っている成果があると考えられる。

今後も、日常生活の中で人権感覚を育んでいけるようにしていきたい。

●「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の回答で3時間以上を超えている児童が60%を超えており、全国平均(35%)と比べるとかなり高くなっている。また、テレビゲームやインターネットの使用時間についても全国平均と比べると長時間やる児童の割合が高い。ただだと室内で過ごしてしまっていることが分かる、生活時間を有効に使っていけるように各種便り等を通じて家庭に啓発していく。

#### 学校や家庭での学習について

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「テレビのニュース番組やインターネットをみる」「新聞を見る」の項目で、全国の肯定割合を上回っていることから、身の回りのことだけでなく、世の中のことまで関心が高まってきているのが分かる。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の項目でも全国の肯定割合を上回っており、社会的貢献についても関心ができてきていることが分かる。学級や学年、学校のためにできることを考え、実践する機会や場を設けていくようにする。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」や家庭での勉強時間について全国平均と比較すると少なくなっている。学年便りを通して家庭学習の大切さについて家庭に呼びかけたり、家庭学習強化月間を設けたりして向上に努めている。今後も、発達段階に応じて主体的に家庭学習に取り組む態度を育んでいけるよう取り組みを推進していきたい。